令和元年（2019）
阿づまの光
10月号・Oktobro

【奈良岡の家別院土・岡の家別院ブドウ釉】

教主さまお作　灰釉茶盌「古りにし里」

題字出口直日

通巻第607号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 猪子 恒
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

累代の祖先の霊を天国に
すくふは子孫が愛善の徳

出口王仁三郎聖師

「みたままつり」の心得 ～幽家合祀と永代祭祀～

祭務課長　加藤道明

〝みたままつり〟には、いくつかの種別があります。その中の「幽家合祀」と「永代祭祀」について触れたいと思います。

幽家合祀とは、遠縁のみたまや、自分がお世話になった恩師、仲の良かった友人などのみたまを好意上、綾部・みろく殿祖霊社の幽家に合祀することを言います。

昨今は、新築される建物の土地や引越しされるマンション等への入居前に、地鎮祭や清祓祭を行うとともに、過去にその土地で不慮の事故等で亡くなったり、誰にも供養されずに彷徨っているみたまがおられるかもしれないとの思いから、〝その土地・建物に所縁ある諸々の神霊等〟として霊界での向上を願い、幽家へ合祀される方も増えています。

また、高齢化や少子化、後継者不足等で「永代祭祀」を申し込まれる方々が多くなっておりますが、四代教主さまのご教示に、

「永代祭祀をすればいいように安易に考える人がありますが、これはどうかと思います。家族もなく、信仰の後継者はだれもいないという場合は仕方ないかもしれませんが。また、家族がいるのに他宗の儀礼で葬祭をして、あとで大本で祀りかえればいいということを簡単に言われる人がいますが、そんなものではないように思います。最初からきちんとしたほうが、亡くなった方も、それだけ早く天界に行かせていただけるのではないでしょうか」

（『つるかめ日誌』平成9年5月20日）

と示されてありますように、「永代祭祀」はあくまでも最終的な選択肢であり、それ以前に、まず後継者に大本信仰のありがたさや〝みたままつり〟の意義をしっかり伝えておくことが大切なことだと思います。そのためにも「信仰と祖霊祭祀」についてあらためて認識する必要があります。

〝みたままつり〟について解らない点がございましたら、東京宣教センター祭務課、または梅松苑・綾部祭祀センター霊祭課までご相談ください。

人生に大切な4つの原理

～大本四大主義の実践～

四大主義とは、清潔、楽天、進展、統一の４つの主義を示します。心身を清らかにすることで楽天的になり、さらに進展的な気持ちが生まれ、皆が心を一つにすることで、ますます発展・向上していきます。これはいつの時代も変わらぬ人生に大切な根本原理なのです。

大本では、この世に生を受けた瞬間から亡くなるまで〝み魂みがき〟といって、人生は魂を向上させる旅であると教えられています。人には、それぞれ運命と宿命があり、宿命とは、天命、この世に生を受け、生まれながらに魂に宿っている天から与えられた使命です。

人生はこの宿命を覚る旅でもあり、また、旅の中で様々な経験を積み、魂に徳を積み向上しながら、自らの意志で道を切り開き、前に進んでゆくのが運命だと教えられています。

生きがいとは

皆さんは、普段の生活の中で、仕事や趣味などに、生きがいや使命を感じていますでしょうか。

家庭でも、社会でも、常に良いことばかりという方は、めったにおられないと思います。日常生活において、常に前向きで、喜びや楽しみを持っている人は、何か困難な出来事に直面しても、自分の良心に省みて、なんとか宣り直し、また、神仏を信仰している人は、その対象にすがって、明るく前を向こうと努力されると思います。

一日一日を大切にして、心豊かに、生き生きと生活していきたいものです。

初めに、運命と宿命についてふれましたが、世の中のすべてのものには、使命、役割があって存在します。例えば、私は幼いころから眼鏡をかけています。年齢を重ねるにしたがって見え方が変わり、レンズの種類も変わっていますが、私にとって眼鏡とは、生活に欠かせないものであります。人が、視力の弱い人のために作り上げた道具が眼鏡であり、この世に存在する使命、役割があるのです。

これは、ここにいる皆さん、そして世の中、全ての人にも共通する事実だと思いますが、人は、神さまのご意志によって、それぞれ何らかの使命を帯び役割があって、この世に生かされているのです。

わずか１００年足らずの人生の中で、生きる目的、どのような人生を送り、どのような最期を迎えるのか。このようなことを心の片隅におきながら生活することが、日々の生活の指針になり、生きがいともなると思います。

令和の時代を迎えて

本年5月1日からは、元号が平成から令和となり、新たな時代に入ります。安倍総理は、この『令和』には、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められている」と述べています。大本の教祖・出口王仁三郎聖師は、

春風の薫りて諸(もも)の花ひらく
のどかな御代(みよ)となさしめ給へ

という道歌を残しています。令和は、まさにこの歌の示すのどかな御代(みよ)、平和な御代の到来が象徴されるような元号ではないかと拝察させていただきます。

梅は厳しい冬を乗り越えつぼみを膨らませ、春の様々な草木の花々に先駆けて芳ばしい花を開き、やがて実を結ぶものであります。私たちは、古来から、この早春に咲く一輪の白梅を愛で、心を潤わせ、初夏の実りを頂戴し、青葉に盛夏の到来を感じてまいりました。

私たちが梅の成長を楽しみ、見守っているように、創造主であります神さまは、人が霊界から現界に誕生し、また霊界に帰るまで、現界での一生涯を、温かく見守ってくださっています。

人生、人の生きがいとは、寒さに耐えて成長する梅のように、神さまのご守護のもと、一人ひとりが自らの魂を、一生涯をかけて、いかに向上させ、実りある生き方をするかにあるともいえます。

令和時代を控え、人々が心を寄せ合い和合する天国的な社会を、お互いに作り上げるために、本日は、大本で教えられている清潔主義、楽天主義、進展主義、統一主義という、四つの生活実践の教えから、魂を向上させるための人生の歩み方を考えたいと思います。

清潔主義 ～心身修祓の大道～

私たちの周囲では、大宇宙の浄化作用から個人の心の中の魂のくもりまで、様々な潔斎が、日々繰り返されています。雨も、風も、太陽光線も、ある意味では天地間の大きな清め、潔斎の作用といえます。

神道では祭典の初めに、河川や海洋、大気、熱などを司る祓戸四柱の大神さまに祈願し、斎場全体を祓い清める儀式が行われます。普段の生活の中でも、玄関先に打ち水をしたり、盛り塩で清めたり、外出時に火打石を打って清めたりと、日本人の生活の一部として自然と形に表している清潔法です。

人体は、よく宇宙の縮図として表現されますが、体を清潔にする、部屋の掃除をする、換気をして空気を入れ替える、周囲の環境を美しく保つことは、内面的

～21世紀・生きがい講座～

柿崎 哲男
大本関東教区特派宣伝使（当時）

な心の健康、清々しさにつながります。王仁三郎聖師は、

身の垢は湯水石鹸であらへども
洗ひがたきは心なりけり

と説いていますが、心の健康を保つためにも、身心の清潔主義を心がけることが大切です。

楽天主義 ～天地惟神の大道～

心の中を清潔に保つためには、常に良い言霊（ことたま）、善言美詞に努めることが大切です。言葉は「ことのは」、「心の端」といって、心の姿が言霊となって現れたものです。内面的な清潔につとめ、常に明るく、曇りのない状態で過ごすことによって、楽天的な心が得られます。

楽天とは天命を楽しむことです。天地を創造された神さまからいただいている天命、生まれながらに宿っている一人ひとりの宿命を楽しむ。心に正しい信仰を持ち、ゆったりと春の気分で神さまの定めにまかせ、すべてを受け入れ、明るく素直に生きることが楽天です。

また報恩感謝〝神さまはありがたい〟という心の響きを感じながら、魂を大きく、広く、高く向上させるのが、この楽天主義であり、天地惟神（かんながら）の大道です。惟神とは、すべてを神さまの〝み心〟におまかせします、という意です。生きている間に神さまのありがたさを感じる事ができなければ、この世に生を受けた甲斐がないと、私は思います。

進展主義 ～社会改善の大道～

進展とは、より良くなりたいという向上心です。楽天的な心をもって現実を向上させようと努力する働き、これが進展主義、社会改善の大道です。

季節は春夏秋冬、毎年繰り返されますが、昨年と同じ今年はなく、同じ来年はやってきません。まるで、らせん軌道のように進展しているといわれます。意思伝達の形式も、手紙や電話からメールやテレビ電話など、時代と共に多様化していきます。また女性のファッションなども、時代を繰り返しながら同じようなデザインがさらに洗練され見直され、進化発展を続けています。

流水は常に瑞々しさを保ち、停滞するとよどんで腐敗していきます。時間も決して止まることなく、常に進み続けます。天地万物はすべて進展するばかりで、後戻り、やり直しということはありません。

私たち人間はどうしても前向きになれなかったり、消極的になったり、後戻り、やり直しをしがちですが、それは一時的な人間心であって、魂に備わっているのは本来、進展主義なのです。自分がしっかりと前を向くために、また社会がより良くなるための一助となるために、自らの良心「直霊（なおひ）のみ魂（たま）」と向き合い、反省心と勇気を振り起して前に進むことが大切です。

統一主義 ～上下一致の大道～

4つ目の統一主義は、四大主義の中で最も重要とされています。

すべてのものに統一がなければ、物事は乱れ、存在自体が不安定になります。大宇宙そのものが統一体であり、すべての物には中心があります。天地すべてが一致し、中心のもとに統一されています。物事をすべて一つに統（す）べるものが統一主義、上下（しょうか）一致の大道です。

統一のなき世の中はなにもかも
麻の乱れの治まるときなし
（出口王仁三郎）

たとえば家庭内が統一されるためにも中心となる柱が必要です。国、社会、会社、団体も同じで、中心があって初めて統一があり、統一されてこそ、調和のとれた平和と繁栄のある働きができます。森羅万象すべてが中心のもとに統一されています。そして、大宇宙すべての中心とは何かを考えるとき、天地を創造された主神へ帰一するように、謙譲の徳によって上下が一致される。このことが統一のために大切なことです。

私たちは清潔を心がけることによって楽天的な心持ちが得られ、また楽天的になって本当の意味で進展することができます。しかし、全体の統一が無ければ、心も体も、また大自然や社会環境も成り立ちません。この四つの主義は、密接不離の状態で相互に関連しあっています。

人は生かされていること、感謝と真心を忘れないこと。人生を心豊かに過ごすため、いつも天国的に保ち、魂の向上を目指しましょう。

四大主義の実践の意識して、心を神に任せ、世のため人のために生きる。人生の本分、生きがいとは、ここに集約されるのではないかと思います。

掲載文は、平成31年4月17日に航空会館（港区新橋）で開催した「21世紀・生きがい講座」講演録の要旨です。

東光苑月次祭

東光苑月次祭（長寿感謝祭・交通安全祈願）ならびに秋季合同慰霊祭は、9月8日午前10時30分から、斎主・橋本伸作東京宣教センター次長のもと執行され、294人が参拝した。

祭員は関東教区各主会青松会員が、伶人は二絃の会関東支部、大本神諭拝読を朝倉剛太郎群馬主会青松会長が、添釜は高野社中が担当した。

祭典後、猪子恒東京宣教センター長があいさつ。本日、長寿感謝祭に参拝の対象者に祝辞を述べた。

引き続き、関東教区青年部が大本少年祭で様々な奉納行事に参加した様子を、映像を交えて報告。

続いて、「長寿祝賀式典」が行われ、列席者16人（写真）を紹介。椿リツ直心会関東教区常任委員から祝辞と記念品の授与があり、列席者を代表して、福島主会の菅野春子さんが記念品を受取り、群馬主会の朝倉泰さんが答辞を述べた。なお本年の関東教区の長寿該当者は、白寿2人、米寿36人、喜寿56人。

当日列席者＝米寿／菅野春子（福島）、野澤吉枝・市川勢子（東京）、長谷川政榮（神奈川）、濱田三智子・土井冨士子（東京本部直属）
喜寿／朝倉泰（群馬）、名古屋梢（埼玉）、城本建彦・牛膓久美子・平松弘子（千葉）、青森佳子、山口朝子・石田ゆめ子（東京）、旗手彬人・藤谷稔泰（神奈川）

21世紀・生きがい講座

第198回21世紀・生きがい講座は8月21日、港区新橋の航空会館で開催され、田辺謙二大本教学委員会委員が「あの世を知って現代を生きる」～大本の霊界観～と題して講話した。受講者は40人。

田辺講師は、「大本では〝現界は修行の場〟と教えられており、現界での体験を通して魂をより大きく、強く、綺麗にさせていただき、死後、霊界に戻ったとき、神さまの手足となってご用をさせていただく。そのことが人生の大きな目的」と説明。「霊界は意思想念の世界。天国に行くためには現界にいる間に心の中に天国を作るように努める。そのためには、常に良心に省みて、一生懸命前へ進ませていただくこと」として、現界での生き方の大切さを述べた。

参加者からは、「日々の心の持ち方がいかに大切であるかを学ぶことができた」「現界や霊界についての大本の教えが勉強できてよかった」などの感想がよせられた。

東光苑秋をめでる夕べ

東光苑秋を愛でる夕べは中秋の名月にあたる9月13日、午後6時から催され、一般を含む41人が来苑。

朧月のもと、東光庵にて高野社中による薄茶接待が行われ、路地を照らす行灯と能楽の調べが、幽玄の世界を演出した。

11月 東光苑祭典・行事予定

3日（日）午前10時30分～
開教127年 大本開祖大祭遥拝祭

10日（日）午前10時30分～
東光苑秋季大祭
新穀感謝祭
七五三詣り

20日（水）午後7時～8時30分
21世紀生きがい講座（航空会館・新橋）
講題 平和になるはこの道
～世界連邦の実現を目指して～
講師 谷本真邦（世界連邦運動協会理事・世界連邦日本国会委員会事務局次長）

23日（土）・24日（日）
東光苑葬祭研修会

大本東京本部ホームページ
URL http://oomoto-tokyo.com

第28回 家庭平安祈願祭

日　時　10月26日（土）午前10時30分
場　所　東京宣教センター・ご神前
申込み　申し込み者は信徒・一般を問いません。ご本人に代わっての申し込みも可能です。ご希望の方には申込書をお送りします。所定の申込用紙に必要事項を明記の上、祭典玉串（任意）を添えて、所属の機関、または東京宣教センター祭務課「家庭平安祈願祭」宛にお申込みください。
締　切　10月21日（月）必着
その他　ご祈願は祭典後1週間執行します